

■年始の挨拶■



栃木県看護連盟会長
宮本律子

栃木県看護連盟会員の皆様、あけましておめでとうございます。

看護連盟の活動に関しご支援とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

昨年は、年明け早々より新型コロナウィルス感染症に悩まされ、感染への恐怖で過ごした1年間となりました。栃木県におきましては、医療崩壊の危機なく過ぎることができました。各医療現場で働く会員皆様の努力に感謝を申し上げますと同時に敬意を表します。まだまだ気を抜くことはできません。感染対策の基本を忠実に守っていきましょう。

栃木県看護連盟としては、国会見学を始め、ほとんどの研修会を中止としました。しかし、現場の状況のアンケート調査等を行い看護協会とともに危険手当の支給等につなげられたことは、職能団体として一つの成果と考えています。また、目標会員数を7,700名としましたが、ほんの少し上回り7,703名(昨年:7,658名)となったことは、更に連盟活動への理解が広められたと受けとめております。

今年、栃木県看護連盟は設立60年を迎えます。新型コロナウィルス感染症が落ちついた後、大きく社会のありようが変わるともいわれています。今までの歴史を振り返りながらも更なる変化に対応できる組織でありたいと考えています。まずは、医療現場の落ち着きを願いたいものです。

昨年11月に福田栃木県知事が5選目当選を果たしました。誠に嬉しい限りです。看護界におきましては、今年度、第26回参議院議員の看護職の候補者が決まります。専門職として、最良の看護を提供できる環境を整えていく政策の実現に向けて、栃木県看護連盟としても一致団結し、応援の輪を広げていきましょう。

あけましておめでとうございます。

昨年はCOVID-19の感染に終始した1年でした。臨床の皆様には、それぞれの立場で、最善を尽してきて頂いた1年であり、心からの敬意と感謝を送ります。戦いは終わったわけではありませんが、もう一息です。国民と共に頑張りましょう。

連盟の昨年の課題は、令和の地域包括ケアシステムに合わせたスローガンの変更とPR動画やポスターの作成、広報ツールの見直しとブロックセミナーを協会長参加で開催すること、そして戦略会議を各県ごとからブロック開催することでした。以上は確実に実現できましたが、第26回参議院選挙の候補予定者の推薦については、委員会規約を見直し、今年の総会でご承認いただく予定です。

丑年の今年は、大地に足を下ろし、協会が連盟をつくってきた60年前に戻り、「看護は一つ」の合言葉の下に、連盟活動を原点回帰の1年にしたいと考えます。本年も宜しくお願い致します。

あけましておめでとうございます。昨年は、全世界的に新型コロナウィルス感染症とともに多くの年だったのではないでしょうか。対応にあたり、医療現場の最前線で日々ご尽力いただいている医療従事者の皆様に対し、感謝申し上げるとともに敬意を表したいと思います。

さて、昨年の研修会で、看護連盟・看護部長会・看護系教員協議会・民間病院の方々にお話をしていただく機会がありました。そこで打ち合わせの中で、「今までは栃木県などに要望するときには、各団体がそれぞれ行ってきたが、今後は看護職の団体として要望していく方が良いのではないか」という意見がありました。毎年看護協会と看護連盟は、県議会議員への要望書と一緒に提出していましたが、更に協働していく必要性を強く感じました。何を行うにしても、法律の後ろ盾がないと予算の確保も難しい状況があります。看護連盟と看護協会が、協働してそれぞれの役割を果たしていきたいと思います。

今年も、どうぞよろしくお願ひいたします。



日本看護連盟会長
大島敏子



公益社団法人
栃木県看護協会会長
朝野春美